

黒松内町立黒松内中学校工コ改修



主催

北海道・(社)日本建築家協会北海道支部・(社)北海道建築士会・(社)北海道建築設計事務所協会

ごあいさつ

「北海道赤レンガ建築賞」は、北海道における建築創造活動を促進し、建築文化の向上や地域に根ざしたまちづくりの推進などを図ることを目的として、地域社会の発展に貢献する創造性豊かな建築物等を表彰するものです。

第20回目となる平成19年度は、実行委員会に新たなメンバーを加え、多くの方々の協力をいただき実施いたしましたところ、全道各地から18作品の応募をいただき、その中から北海道赤レンガ建築賞に「黒松内町立黒松内中学校エコ改修」を、また、北海道赤レンガ建築奨励賞に「大成札幌ビル」を、それぞれ決定いたしました。

建築賞を受賞した「黒松内町立黒松内中学校エコ改修」は、環境省による「学校エコ改修と環境教育事業」による全国1回目のモデル校として選定され、地域住民や建築関係者による「エコ改修検討会」や「環境教育検討会」を行い、学校やまちのあり方を協議し、地域の特性に配慮した学校づくりが実を結びました。

既存校舎を活用し、その鉄筋コンクリートの床と屋根の一部を解体し、ガラスの屋根で覆う「ひかりのみち」と呼ぶ空間を造り出したことにより、採光、通風、耐震といった複数の要求を満たすだけでなく、生徒や先生が活動し、自然にこの場所に集まり楽しい時を過ごす、生き生きとした学びの空間が創り出されました。

建築家の創造力と関係者のねばり強い努力が、単に、断熱性や耐震性の向上といった観点に留まらない「ひかりの道」という大胆な発想による、優れた個性と機能と魅力を与えた点が高く評価されました。

一方、奨励賞を受賞した「大成札幌ビル」は、札幌市南一条通りに面し、旧商業ビルの建て替えによる、同社が環境に特に配慮し、その技術力を結集した「スーパーエコビル」の最初の実施事例です。

建築・構造・設備の各分野において、トップライト付きの5層吹き抜け空間である「エコポイド」を始め、「鋼材・オイルダンパー制震システム」、「躯体蓄熱放射冷暖房システム」、「太陽光自動追尾型採光装置」など先端的で高度な技術を採用し、フレキシブルなワークスタイルに相応しい開放的で明るく快適な執務空間を創り出しました。

札幌の冷涼な空気を利用した換気システムによる冷房負荷の軽減など、地域の自然環境を活かした高度な技術により、オフィスビル建築の可能性を追求し実現した点が高く評価されました。

受賞された二作品のように優れた建築物は、地域特有の風土と文化の創造に高い見識を持つ建築主、想像力と表現力が豊かな設計者、そして高い技術力をもった施工者が一体となって生まれるものであり、道民のかけがえのない財産となるものです。

北海道赤レンガ建築賞が、意欲的な建築創造活動を促進し、地域社会の発展に寄与することを期待するとともに、受賞者のみなさまが今後ともますます活躍されることを祈念いたします。

おわりに、実行委員、審査委員の方々をはじめ、協賛者、応募者のみなさま、また建築賞の実施にあたり、ご協力いただきました多くの関係者の方々に心から感謝を申し上げます。

平成20年1月

北海道建設部長 猪俣 茂樹





写真：吉田 誠

平成19年度 北海道赤レンガ建築賞

■趣 旨

地域社会の発展に貢献する創造性豊かな建築物等を表彰することにより、本道における建築創造活動を促進し、健全な地域文化の発展と広く建築文化に対する意識の高揚を進め、もって、地域に根ざしたまちづくりの推進などを図ることを目的とする。

■表 彰 内 容

- 北海道赤レンガ建築賞 1点 銘板、表彰状
 - 北海道赤レンガ建築奨励賞 数点 表彰状
- それぞれ、北海道知事が建築主、設計者、施工者を表彰します。

■募 集 対 象

北海道内に建設され、平成19年3月31日までに竣工した建築物及び建築物群とします。
なお、竣工後の経過期間がおおむね3年以内の作品は応募の対象となります。

ただし、北海道（教育庁及び警察本部を含む）が建築主のもの及び個人の利用に限定されるものは除きます。

■募 集 期 間

平成19年8月1日（水曜日）から平成19年8月31日（金曜日）まで

■応募作品数

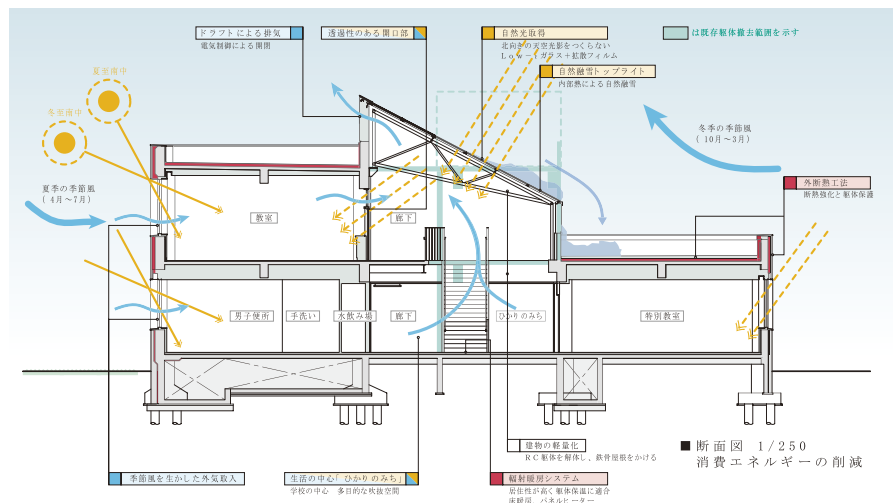
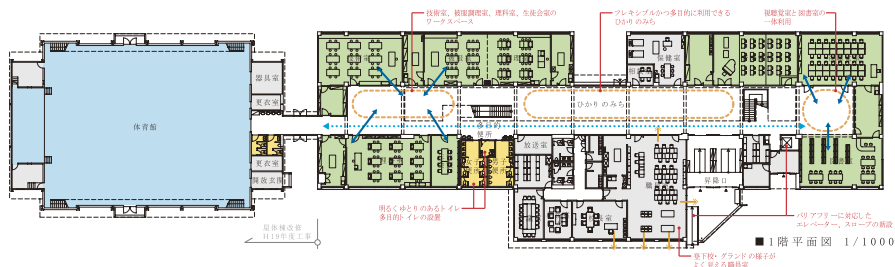
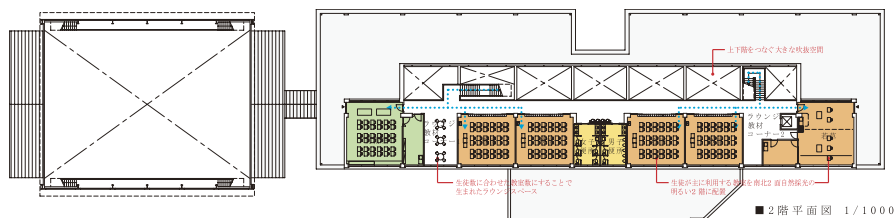
18作品

■審査委員会

- | | | | | |
|-------|-------|-----------------|-----|-----|
| 委 員 長 | 大矢 二郎 | 北海道東海大学 | 教授 | |
| 副委員長 | 吉田 宏 | (社)北海道建築設計事務所協会 | | 会長 |
| 委 員 | 瀬戸口 剛 | 北海道大学大学院 | 准教授 | |
| 委 員 | 早川 陽子 | (社)北海道建築士会女性委員会 | | 委員長 |
| 委 員 | 圓山 彬雄 | (社)日本建築家協会北海道支部 | | 支部長 |

黒松内町立黒松内中学校工コ改修(校舎棟)

- **作品名** 黒松内町立黒松内中学校工コ改修(校舎棟)
- **建築主** 黒松内町
- **設計者** 株式会社アトリエバンク
- **施工者** 田中組・伊藤組土建・スガワラ特定建設工事共同企業体
末廣屋電機・黒松内電工社特定共同企業体 / 藤井設備・佐々木配管特定共同企業体
- **建築物の概要**
 - 所在地 北海道寿都郡黒松内町字旭野48番地1
 - 主要用途 中学校(校舎棟)
 - 構造及び階数 鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 2階建
 - 建築面積 2,813.34㎡
 - 延べ面積 3,583.47㎡
 - 竣工年月日 2007年2月28日



■企画の特徴

黒松内中学校工コ改修事業は、昭和53年竣工のRC2階建て校舎とS造平屋建て体育館に改修を施すことで、さらに20年以上にわたって使用していくことを目的としたプロジェクトである。改修テーマは、文科省補助による老朽化対策などのほか、環境省補助によるCO₂削減が求められた。

計画プロセスにおける大きな特徴は、設計者選定プロポーザルを行う1年以上前から、地域住民や学校を巻き込んだ「環境教育検討会」と、建築技術者向けの「工コ改修検討会」の2つが平行して進められたことである。これらの検討会において、事業の目的は単なる老朽化対策ではなく、黒松内の地域特性に配慮したサステナブル建築のモデルをつくることであり、そのシステムを地域住民や学校が理解して活用できるものにするということである、という認識を参加者全員と共有することができた。

■設計の特徴

検討会の成果を踏まえて行われた設計者選定プロポーザルでは、建物中央部分の床スラブを解体し、ガラス屋根で覆うことで得られる2層吹き抜け空間「ひかりのみち」による計画を提案した。この手法によって、サステナブル建築に求められる様々なテーマを解決することが可能となる点が評価され、採用に至った。具体的な特徴は以下の4点である。

1. 黒松内の気候特性(夏の南風、冬の北風、少ない日照時間)にふさわしい自然採光、自然通風の手法による消費CO₂の削減
2. 躯体の軽量化による耐震性能の向上
3. 「ひかりのみち」を中心とした教育のための活動空間の再編
4. 1学年1クラスの児童数にふさわしい親密で一体感のある空間を獲得

■施工の特徴

既存躯体を一部解体撤去し、新設の鉄骨架構とガラス屋根を架ける施工であった。したがって、設計時において既存躯体の調査を十分に行ったにもかかわらず、仕上げを除去すると想定外の問題が多く見られた。施工中は設計者・構造事務所・施工者の3者が緊密に連絡を取り合い、構造上の様々な問題点の解決に当たり安全性を確保するとともに、町への説明責任を果たすよう努めた。

精度の低い既存躯体に対して、新しい鉄骨トラスやサッシ、外断熱外装材システムを組み合わせるため、デザイン上不自然にならないよう、細部の収まりを調整しながら現実的な施工方法を積み重ねた。

■完成後の地域への貢献度など

「ひかりのみち」の手法は、サステナブル建築の手段として合理的な手法であったといえる。しかしそれ以上に重要なのは、施設全体が、自然光に満ち溢れた明るく活動的な空間に変容したことである。自然光利用は照明負荷削減のためだけでなく、学習プログラムや子供たちの気分にも大きな影響を与えているようである。

建物竣工後は、検討会を運営した事務局を中心に、アドバイザー、町、学校、設計者などが集まり、消費エネルギーのモニタリングや運用マニュアルの検討などが継続して行われている。また、授業カリキュラムの中に環境教育のプログラムが盛り込まれ、建築の改修手法が生きた素材として活用されている。

建築主 黒松内町長 谷口 徹

この度、栄えある「赤レンガ建築賞」を受賞した黒松内中学校は、環境省が所管する「学校エコ改修と環境教育事業」の第1期モデル校の全国第1号として、自然環境に恵まれた「ブナ北限の里」で再生されました。

本校舎(昭和53年建築)は、「エコ」をキーワードとしてリフォームしたのですが、日照時間が短いという気候特性の中で、学校で使用するエネルギー削減などの課題を「ガラス屋根」と「外断熱による躯体蓄熱」で解決し、明るい学校として生まれ変わりました。このガラス屋根の下に広がる空間(ひかりのみち)は、ミドルホールとしての機能の他に、生徒達が賑やかに語らい合う本校のオアシスとして、学校に新たな潤いを与えています。

受賞にあたり、ご苦勞を共にされた多くの関係者に感謝申し上げると共に、本校のエコ改修の意義を広く全国に発信し続けたいと思っております。

設計者 株式会社 アトリエブク 代表取締役社長 三栖 博

黒松内中学校エコ改修のプロジェクトで議論されたテーマには、消費CO₂の削減、耐震性能の向上、ストック活用、生徒数減による余剰空間のありかたなど、地域の公共建築が抱える今日的な問題が含まれていました。このような普遍的なテーマに対して、あくまでも黒松内という場所の特性にふさわしい解決策を求めるとき、「ひかりのみち」の構想が始まりました。このような構想を採択し、事業全体を見事に統括された黒松内町の皆さんに心から感謝いたします。また、設計チームとして協働した金箱構造設計事務所、高い技術力を発揮された建築、電気、設備JVの皆さん、環境教育カリキュラムを運営する黒松内中学校の先生方及び運営事務局の皆さんに心から感謝すると共に、受賞の喜びを分かち合いたいと思います。

施工者 田中組・伊藤組土建・スガワラ 特定建設工事共同企業体

株式会社田中組 取締役社長 竹中 勝好

この度は平成19年度北海道赤レンガ建築賞の受賞という栄誉に拝し、施工者として大変光栄に存じます。このような受賞の機会を賜り、発注者の黒松内町、設計監理の(株)アトリエブクの皆様方に心より感謝申し上げます。

この中学校は環境省が創設した「エコ改修」制度の第一号に選ばれ、合わせて耐震性能の向上を組み合わせた改修工事でありました。完成時には柔らかな自然光がふりそそぐ「ひかりのみち」で生徒達が談笑する姿が思い描かれ、改めて施工者としてこの事業に携わった喜びを感じたものです。

この学校施設が生徒達は勿論、黒松内町民の皆様にも「和み」を与え続けてくれることを祈念して止みません。



写真：酒井広司



写真：吉田誠



写真：吉田誠

施工者 末廣屋電機・黒松内電工社特定建設工事共同企業体

代表者 末廣屋電機株式会社札幌支店 支店長 国兼 勝見

この度の北海道赤レンガ建築賞の受賞は電気設備工事の施工者として、誠に光栄でございます。発注者であります黒松内町の「エコ改修」の考え方に基づき、設計事務所(株)アトリエブクの指導のもと、電気設備について省エネルギー対応の機器を採用するなど、環境に配慮した施工に努めました。黒松内町様はじめ、設計事務所、建築工事、設備工事の関係の皆様には、何かとご指導ご協力をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

この度の受賞を励みとし、この貴重な経験を生かすと共に、さらなるエコロジーの施工技術の向上に努めてまいります。

施工者 藤井設備・佐々木配管 特定建設工事共同企業体

代表者 藤井設備株式会社 代表取締役 佐藤 久

この度、「北海道赤レンガ建築賞」受賞の栄誉に浴したことは、施工業者としては大変光栄に存じると同時に、社内外の励みとなり、挑戦するエネルギーとなりました。

審査委員会並びに工事に携わった関係各位に心から御礼申し上げます。当社としては「エコ改修」の施工は初めての経験でありましたが、設計事務所様のご指導と各施工業者様のご協力を賜り、結果的には黒松内町の皆様にも良いものを残せた事を、改めて感謝申し上げます。

この教育施設が黒松内町にとって、歴史に残る建物として広くご活用されますことを祈念しつつ、受賞の言葉と致します。

平成19年度北海道赤レンガ建築奨励賞受賞作品 大成札幌ビル

■ 作品名	大成札幌ビル
■ 建築主	大成建設株式会社
■ 設計者	大成建設株式会社一級建築士事務所
■ 施工者	大成建設株式会社札幌支店
■ 建築物の概要	所在地 北海道札幌市中央区南1条西1丁目4番地 主要用途 事務所・店舗 構造及び階数 鉄筋コンクリート造及び鉄骨造 地上8階地下1階建 建築面積 770.65㎡ 延べ面積 6,970.38㎡ 竣工年月日 2006年6月30日



□企画の特徴

大成建設では、環境に特に配慮した建築をスーパーエコビル (Super ecological building) と位置付け推進している。「大成札幌ビル」はその適用第1号プロジェクトである。環境に十分配慮した計画と共に、次世代オフィスビルとして新たに開発した技術を導入。建築・構造・設備が融合した省エネルギー技術や様々な工夫を盛り込んでいる。

□設計の特徴

連立するコンクリート打放しの壁は、新たに開発した制震システムTASMOの構造架構を現している。外殻にストラクチャをそのまま表現することで、街並みに対して建築のもつ不変的な強さと美しさを表現することを狙った。外部に対しては必要最小限の開口とし、内部にエコポイドと呼ばれる吹き抜けを設け、熱損失の低減と豊かな執務環境の実現の両立を図っている。エコポイドには天空からの光がオフィスの隅々まであふれ、風が心地よく流れる。オフィスは外周をめぐる壁柱で囲まれた大空間。柱型のようなものは無い。一体の内部空間では打ち放しコンクリートの構造躯体をすべて見せた。中央にある吹き抜けが多層空間をつなぐ。ガラスで囲まれた階段とシャフトレスのシースルーエレベーターで行きかう人の視線や会話が交錯する。コアのようなものもない。100年以上たっても使われ方にかぎりなく自由でありたいからである。そのために構造は高い制震性能と長寿命の新しい建築架構システム「TASMO (タスマ)」を用いている。地震時の損傷を限定的に制御するシステムである。制震システム以外の構造は自身力から解放され、鉛直力のみを支持する架構となることを特徴としている。

□施工の特徴

TASMOは制震装置として、壁柱をつなぐ鋼材ダンパー (LOYAL梁) とオイルダンパーを組み合わせ、地震エネルギーを集中的に吸収させ、高い耐震性能を保有させている。LOYAL梁中央部は、ブラケットとボルト接合することで交換可能とし、大地震を数回経験した後も限定した部分のみを交換することで永久的に持続できる架構システムとしている。さらに、外壁にはPCa板を型枠として100mmの外断熱を打込んでいる。外断熱のスケルトン内装にマッチした「北国空調」を備えた。冷温水配管を埋設した躯体蓄熱放射冷暖房システムをメインにフリークーリング、自然換気や外気冷房など北海道ならではの自然エネルギーを最大限に利用するシステムである。吹き抜け最上部には太陽光自動追尾型採光装置「T-Soleil (ティーンソレイユ)」が取り付けられ照明消費電力の20~30%を削減している。一年を通して目に優しい光がポイドの底部にまでとどく。

□完成後の地域への貢献度など

「北海道という寒冷地の気候に最も適したビルとはどのようなビルか?」という問いにでき得るかぎり答えるいろいろな試みを行った。完成後は学会、各大学の教授や研究生、民間企業等へ建物を公開し見学会を実施 (年間2000名以上)、環境に対する技術や取組みを公開している。省エネルギーを目的とした様々な取組みについてはその指標としてCASBEE Sランク、PAL値-32.7%、ERR値-40%、LCCO₂-34.1%の大幅な削減を達成した。今後BEMSで蓄積されるデータを元に解析・評価を行っていく予定である。

建築主 大成建設(株)札幌支店 **執行役員支店長** 小野沢 潔

このたびは栄誉ある北海道赤レンガ建築奨励賞を頂き厚く御礼申し上げます。

当社は北海道において、1880年樺戸集治監（現：月形刑務所）に始まり127年にわたる建設の歴史があります。このたびの大成札幌ビル建設に当たり、北海道の建築物として相応しいものを提案すべく最新の設計思想と施工技術を導入し、本社・支店が一体となって完成に至ることができました。また、オフィス空間においては、当社のFM技術を駆使することにより、開かれたワンルームオフィスコンセプトとした最先端次世代オフィスを実現しています。

私共はこの建物が、地球環境にやさしく、また働く人々に生き生きとした空間を提供する存在であり続けることを願っています。

設計者 大成建設(株)一級建築士事務所 **プロジェクトリーダー** 高橋 章夫

大成建設では、環境に特に配慮した建築「スーパーエコビル」を推進しており「大成札幌ビル」はその第1号プロジェクトにあたります。今回設計するにあたり、北海道という地域に建つ建築の一つとして最も適したビルはどうあるべきかと考えました。この建築は、建築設計と構造架構、設備システムすべてが一体となり、融合して生まれてくる建築空間の中にこそ、建築として真に取組む環境配慮への解答の糸口があると考えました。このビルが「地球環境」というキーワードの未来へ繋がる一つのヒントになればと願っています。

今回の受賞はこのプロジェクトに携わって来た全ての関係者の方々の受賞であり、ともに喜びを分かち合いたいと思っております。評価して下さいました方に深く感謝します。

施工者 大成建設(株)札幌支店 **建築部長** 朝川 和憲

「大成札幌ビル」は制震構造「TASMO」を採用し、環境に配慮したエコプロジェクトを実現した建物です。仕上げは内外装共にコンクリート打放しを基調としており、躯体の出来映えが即仕上げにつながるため、施工プロセスの中で調整を図りながら、ディテールを決め緊張感を持って施工を進めました。

敷地が市街地中心部であるため、安全性に配慮してクレーンによる大型部材取付は夜間作業とならざるを得ず、時間的制約を受けながらも確実なサイクル工程を守ることで、躯体施工を乗り切ることができました。

完成した建物は、当社の持てる技術を結集し、様々な要求性能を満たし、調和の取れた建築の具現化ができたと考えています。今般、高い評価をいただき受賞できましたことに対して、施工に携わったものとして心より感謝する次第です。



北海道赤レンガ建築賞「黒松内町立黒松内中学校エコ改修(校舎棟)」

地球温暖化が深刻化する中、我が国のCO2排出量の3分の1を建築関連部門が占めるというデータがある。今や、建築に関わる生産活動や日常のライフスタイルのあらゆる場面で「環境」を意識しなければならない時代になった。本年度の応募作品の多くが環境やサステナビリティ(持続可能性)をテーマに掲げていたこともそのような状況を反映している。

寿都郡黒松内町の中学校校舎改修も、単なる老朽化した校舎のリニューアルというより、「環境」をキーワードにした「まちづくり・ひとづくりプロジェクト」と捉えるべきものだ。平成17年、同校は環境省による「学校エコ改修と環境教育事業(通称:エコフロー事業)」のモデル校に選定され、以来、地域の建築技術者と住民は「エコ改修検討会」や「環境教育検討会」の回を重ねて、ハードとソフトの両面から、今後の学校やまちのあり方を協議してきた。「北限のプナ林」をもつ地域の特性に配慮した学校づくりが、町の人々に自らの環境のアイデンティティを再認識させる契機となったことも、この事業の大きな成果というべきだろう。

プロポーザルで選任された設計者の提案は、竣工後30年を経た既存校舎の鉄筋コンクリート屋根と床を一部解体し、替りにガラス屋根で覆うものであった。「ひかりのみち」と呼ぶこの2層吹き抜け空間が、採光、通風、耐震といった物理的要求条件を満たすだけでなく、1学年1クラスの小規模校に一体感のある活き活きとした学びの場を提供した。屋根からの自然光は、教室内の照度を均質化するとともに、季節の移ろいや天候の変化による外部環境の息遣いを屋内の人々にそれとなく感じさせる。生徒や先生たちが自然にこの場所に集まり、大きな木のテーブルを囲んで楽しそうに時を過ごす光景が日常的に見られるという話もうなづける。

もっとも、この手法がどの地域にも同様に適用できるとはいえず、ガラス屋根のアトリウムが熱負荷を増大させ、かえって室内環境を悪化させることもありうる。地域固有の環境条件をよく見極めて対処しなければならない所のだが、その点ここでは、卓越風の流れや積雪状況、日照時間の短さなどのデータを読み込んだ上で、形態の決定や素材の選定がなされている。エネルギー消費量など、数値的な効果は今後の検証を待たなくてはならない部分もあるが、明るく柔らかく空間の質は現時点でも十分評価に値する。解体により露出した梁の一部を隠さずに見せる納まりなども、永い時間の中で生かされる建築の生命を表出していて好ましい。

校舎の改修工事では構造部材の位置や寸法は基本的に変えられないから、断熱性や耐震性の向上、設備の更新といった局所的対応に終始しがちだが、「ひかりのみち」という媒介空間を大胆に導入することにより、空間構造の再編にまで踏み込んだ建築家の構想力と、その実現に向けた関係者の地道だが粘り強い努力に敬意を表するものである。

北海道赤レンガ建築奨励賞「大成札幌ビル」

札幌市南一条通りに面するオフィスと店舗を擁するこのビルは、我が国を代表する総合建設企業がその技術力を結集した成果といえる。同社が環境に特に配慮した建築を目指して取り組んでいるプロジェクト「スーパーエコビル」の最初の実施事例でもあり、建築・構造・設備の各分野において先端的で高度なテクノロジーが採用されている。

オフィス部分の特徴は、外壁の開口部を最小限にして熱負荷を抑える一方、内部に設けたトップライト付き5層吹き抜け空間「エコボイド」に向けて、執務空間を徹底的に開放したオープンプランにある。荷重を負担するのは外殻構造体で、内部には柱も構造コアもない。一部を除いて間仕切壁もなく、社員の固定席もなくした。仕事の様態に応じて家具の配置や座る位置を変えるフレキシブルなワークスタイルに相応しい開放的で明るい執務空間を創出した。

鋼材ダンパーとオイルダンパーにより地震エネルギーを吸収する制震システムや、コンクリートの大きな熱容量を生かした躯体蓄熱放射冷暖房システム、吹き抜け上部に設置した太陽光自動追尾型採光装置など、高度なテクノロジーが融合して斬新なオフィス環境が生み出されている。省エネルギーの効果を示すCASBEE やPAL値などの各種指標も、具体的に建物の環境特性の優秀さを示している。札幌の冷涼な空気を利用した換気による冷房負荷の低減や、プレキャスト・プレストレストコンクリート梁の採用による施工の合理化など、地域の特性を踏まえた技術開発は北国の環境指向型オフィスビルのプロトタイプとして普遍性をもつ取り組みといえる。建築主、設計者、施工者が同一という、ある意味で恵まれたケースの下で、思い切った実験的試行が可能になった部分もあるだろうが、建築の可能性を多面的に追求した関係者の熱意は高く評価すべきものである。結果の検証が今後の更なる技術開発につながることを期待したい。

(北海道赤レンガ建築賞審査委員長 大矢 二郎)

第1回実行委員会

●平成19年5月28日
事業計画、審査委員の決定

第1回審査委員会

●平成19年6月25日
今年度赤レンガ建築賞募集要領及び実施スケジュールの決定

第2回審査委員会

●平成19年9月18日
審査委員の投票により、応募18作品のうち、5作品を現地審査対象として選考

第3回審査委員会

●平成19年10月23日・24日・25日・29日・30日・11月7日
審査委員により、5作品の現地審査を実施

第4回審査委員会

●平成19年11月8日
審議の結果、北海道赤レンガ建築賞に「黒松内町立黒松内中学校エコ改修(校舎棟)」を、同奨励賞に「大成札幌ビル」を選考

第2回実行委員会

●平成19年12月3日
事業結果報告

平成19年度北海道赤レンガ建築賞応募作品

「北海道赤レンガ建築賞」運営基金協力者

整理番号	作品名	所在地		建築主	
		主要用途		設計者	
		竣工年月日		施工者	
①	足寄町役場庁舎	足寄郡足寄町北1条4丁目48番地1 役場庁舎 平成18年10月31日	足寄町 ㈱北海道岡田新一設計事務所 外田・伊藤・木村 経常建設JV		
2	読売北海道ビル	札幌市中央区北4条西4丁目 事務所、ホテル 平成18年7月31日	㈱読売新聞東京本社 ㈱三菱地所設計 大成建設㈱札幌支店		
3	北海道大学弓道場	札幌市北区北11条西7丁目(北海道大学構内) 弓道場 平成19年3月3日	北海道大学・北海道大学新道場建設期成会 合資会社d.n.a.WanderArchi 郷土建設株式会社		
④	大成札幌ビル	札幌市中央区南1条西1丁目4番地 事務所、店舗 平成18年6月30日	大成建設㈱ 大成建設㈱一級建築士事務所 大成建設㈱札幌支店		
⑤	函館市臨海研究所	函館市大町13番1号 研究所 平成19年3月16日	函館市 建築企画山内事務所・川嶋建築研究所JV 小泉建設・山七寺田建設JV		
6	JA美瑛アグリパーク「美瑛選果」	上川郡美瑛町大町2丁目 物販店舗・飲食店舗 平成19年3月15日	美瑛町農業協同組合 ㈱C.S.P.T地域計画機構+㈱鈴木理アトリエ 吉宮・清水 経常建設JV		
7	苫小牧市立ウツナイ小学校	苫小牧市宇沼ノ端930-1、930-2 小学校校舎棟 平成19年3月15日	苫小牧市 西村・相馬JV 菱中・住拓・青地 特定建設工事JV / 岩倉・国策・中村 特定建設工事JV		
8	fクリニックさっぽろ	札幌市南区中ノ沢1丁目12-20 整形外科診療所 平成19年1月31日	福島直 中谷俊治ステューディオ 大成建設㈱・㈱NIPPOコーポレーション 建設JV		
9	MOAアートホール北海道	札幌市西区二十四軒4条2丁目64番地 他 事務室・診療所 平成19年1月31日	宗教法人東方之光 ㈱竹中工務店北海道支店 ㈱竹中工務店北海道支店		
10	五稜郭タワー	函館市五稜郭町43-9 展望台・アトリウム 平成18年11月30日	五稜郭タワー(株) 清水建設㈱北海道支店一級建築士事務所 清水建設㈱北海道支店		
11	砂川駅周辺高次都市施設 砂川市地域交流センター ゆう 及び砂川駅自由通路	砂川市東3条北2丁目3-3 劇場・集会場・自由通路 平成18年10月20日	砂川市 ㈱北海道日建設計 水島・三益・北谷・林工務店・川上鐵工 特定建設工事JV / (電気設備) 平尾・木川・増井・北風 特定建設工事JV (機械設備) 東洋・朝日・村田 特定建設工事JV / (舞台設備) 小林・池下・アピクラボ 特定建設工事JV		
12	望楼NOGUCHI登別	登別市登別温泉町200番地1 旅館 平成18年6月	野口観光(株) ㈱ナカヤマ・アーキテクト 岩田建設(現：岩田地崎建設(株)) / 設備：池田暖房工業(株)		
13	函館市中央図書館	函館市五稜郭町26番1号 図書館 平成17年11月27日	函館市 鬼頭梓建築設計事務所、佐田祐一建築設計研究所 外 ㈱高木組、㈱小泉建設、㈱森川組、㈱今井工務店 外		
14	三石統合中学校	日高郡新ひだか町三石旭町96-1 他 中学校 平成16年9月30日	新ひだか町 ㈱日本技研札幌事務所 岩倉建設(株)		
15	道の駅とろろ・シリエトク	斜里郡斜里町ウトロ西186番地8 道の駅(売店・レストラン他) 平成19年3月27日	斜里町 ㈱ドーコン 河面・斜里・遠藤 経常建設JV / (機械設備) 長屋・クロキ 経常建設JV (電気設備) 片山・今・福田 経常建設JV		
⑯	黒松内町立黒松内中学校工改修 (校舎棟)	寿都郡黒松内町字旭野48番地1 中学校(校舎棟) 平成19年2月28日	黒松内町 ㈱アトリエバンク 田中組・伊藤組土建・スガワラ 特定建設工事JV / (電気設備) 末廣屋電機・黒松内電工社 特定JV (機械設備) 藤井設備・佐々木配管 特定JV		
17	稚内副港市場	稚内市港1丁目2457 市場(店舗・レストラン・温泉・ギャラリー他) 平成19年3月20日	稚内副港開発 ㈱ドーコン 大成・藤 特定建設工事JV / (外構工事) 田畑・錦・林 特定建設工事JV (水処理整備) ㈱アクアジオテクノ		
⑳	積丹町立余別小学校 (小集落のり・デザイン第Ⅱ期)	積丹郡積丹町大字余別町544番地 小学校 平成15年2月17日	積丹町 ㈱アトリエアーク 松村・三上 特定建設工事JV		

区分	団体・会社名
実行委員会 構成団体	社団法人 北海道建築設計事務所協会
	社団法人 北海道建築士会
	社団法人 日本建築家協会北海道支部
	社団法人 北海道まちづくり促進協会
	北海道設備設計事務所協会
	社団法人 日本建築構造技術者協会北海道支部
	社団法人 日本建築積算協会北海道支部
	社団法人 建築設備技術者協会北海道支部
	社団法人 北海道建設業協会
	社団法人 北海道電業協会
関係団体	財団法人 北海道建築指導センター
	株式会社 久米設計札幌支社
	吉田 宏(北海道日建設計)
	株式会社 アーキテクトファイブ
一般有志	株式会社 アトリエバンク
	有限会社 ヒココニシ設計事務所
	道庁建築職有志一同
	株式会社 ディシービー
	株式会社 シー・アイ・エス計画研究所
既受賞者	株式会社 ドーコン
	株式会社 間組札幌支店
	藤本社介建築設計事務所
	株式会社 竹中工務店北海道支店
	山一建設株式会社
	伊藤組土建工業株式会社
大成建設株式会社札幌支店	

整理番号の丸印は第2回審査委員会で選考され現地審査を行った作品です。

これまでの受賞作品(北海道赤レンガ建築賞)

第1回 昭和63年度北海道建築賞

忠類ナウマン象記念館

〔建築主〕 忠類村
〔設計者〕 ㈱アトリエブク
〔施工者〕 ㈱銭高組

第8回 平成7年度北海道赤レンガ建築賞

寿都町総合文化センター(ウイズコム)

〔建築主〕 寿都町
〔設計者〕 ㈱日本設計札幌支社
〔施工者〕 伊藤・五洋・大木・田中・板谷共同企業体



第12回 平成11年度北海道赤レンガ建築賞

鹿追町ピュアモルトクラブハウス

〔建築主〕 鹿追町
〔設計者〕 ㈱倉本たつひこ建築計画室
〔施工者〕 三井・宮坂一般共同企業体



第16回 平成15年度北海道赤レンガ建築賞

真駒内六花亭ホール店

〔建築主〕 ㈱六花亭札幌店
〔設計者〕 古市徹雄都市建築研究所
〔施工者〕 ㈱大林組札幌支店



第2回 平成元年度北海道建築賞

アルファリゾート・トナム

〔建築主〕 ㈱アルファ・コーポレーション
〔設計者〕 ㈱ディーシービー/㈱観光企画設計社
〔施工者〕 大林・伊藤共同企業体

第9回 平成8年度北海道赤レンガ建築賞

本の森 厚岸情報館

〔建築主〕 厚岸町
〔設計者〕 ㈱URB建築研究所
〔施工者〕 葵・影本特定共同企業体



第13回 平成12年度北海道赤レンガ建築賞

幕別町百年記念ホール

〔建築主〕 幕別町
〔設計者〕 ㈱北海道岡田新一設計事務所
〔施工者〕 伊藤・萩原・岡田・藤原・堂前特定建設工事共同企業体



第17回 平成16年度北海道赤レンガ建築賞

モエレ沼公園ガラスのピラミッド

〔建築主〕 札幌市
〔設計者〕 アーキテクトファイブ・横河特定共同企業体
〔施工者〕 伊藤・岩倉・藤井・菱中・山崎特定共同企業体



第3回 平成2年度北海道建築賞

北見市立中央小学校

〔建築主〕 北見市
〔設計者〕 久米・アトリエブク共同企業体
〔施工者〕 天内・小池・奥野・大幸・北洋共同企業体

第4回 平成3年度北海道赤レンガ建築賞

本別町コミュニティーセンターステラプラザ

〔建築主〕 本別町
〔設計者〕 ㈱環境設計
〔施工者〕 中前・近藤共同企業体

第10回 平成9年度北海道赤レンガ建築賞

交流促進センター襟裳岬 風の館

〔建築主〕 えりも町
〔設計者〕 ㈱NHKエンタープライズ21/㈱Kパートナーズアーキテクツ
〔施工者〕 清水・伊藤・国策特定建設工事共同企業体



第14回 平成13年度北海道赤レンガ建築賞

公立はこだて未来大学

〔建築主〕 函館圏公立大学広域連合
〔設計者〕 ㈱山本理顕設計工場
〔施工者〕 大成・千葉・加藤・伊藤・澤田・田畑・三光共同企業体
清水・平林・徳・石井・和工・戸沼共同企業体



第18回 平成17年度北海道赤レンガ建築賞

国稀酒造建築群

〔建築主〕 国稀酒造株式会社
〔設計者〕 はやかわ建築プロジェクト
〔施工者〕 真永建設株式会社



第6回 平成5年度北海道赤レンガ建築賞

千歳市開基記念総合武道館

〔建築主〕 千歳市
〔設計者〕 久米・北栄特定共同企業体
〔施工者〕 地崎・協栄・山崎・田畑・常光特定共同企業体

第11回 平成10年度北海道赤レンガ建築賞

相原求一朗デッサン館

〔建築主〕 六花亭製菓㈱
〔設計者〕 高市都市・建築・デザイン/㈱大林組札幌支店
〔施工者〕 ㈱大林組札幌支店



第15回 平成14年度北海道赤レンガ建築賞

札幌ドーム

〔建築主〕 札幌市
〔設計者〕 原 広司+アトリエ・ファイ建築研究所・アトリエブク特定共同企業体
〔施工者〕 札幌ドーム新設工事特定共同企業体(大成・竹中・ジャール・ボヴィス・インク)



第19回 平成18年度北海道赤レンガ建築賞

情緒障害児短期治療施設

〔建築主〕 社会福祉法人タラブ
〔設計者〕 藤本社介建築設計事務所
〔施工者〕 清水建設株式会社北海道支店



第7回 平成6年度北海道赤レンガ建築賞

白金インフォメーションセンター

〔建築主〕 美瑛町
〔設計者〕 北海道東海大学北方生活研究所
〔施工者〕 タカハタ・清水共同企業体



これまでの受賞作品(北海道赤レンガ建築奨励賞)

第7回 平成6年度北海道赤レンガ建築奨励賞

鹿追町民ホール・神田日勝記念館

〔建築主〕 鹿追町
〔設計者〕 ㈱日本工房
〔施工者〕 清水建設㈱北海道支店



第9回 平成8年度北海道赤レンガ建築奨励賞

ソメスサドル砂川工場

〔建築主〕 ソメスサドル㈱
〔設計者〕 ㈱倉本たつひこ建築計画室
〔施工者〕 ㈱中山組



第12回 平成11年度北海道赤レンガ建築奨励賞

北広島芸術文化ホール・図書館

〔建築主〕 北広島市
〔設計者〕 道日建・道開コン特定共同企業体
〔施工者〕 芸術文化ホール:清水・伊藤・豊和特定共同企業体
図書館:飛島・地崎・広谷特定共同企業体



第16回 平成15年度北海道赤レンガ建築奨励賞

由仁町立由仁保育園

〔建築主〕 由仁町
〔設計者〕 ㈱アトリエブク
〔施工者〕 鴻池・川上経常建設共同企業体



第7回 平成6年度北海道赤レンガ建築奨励賞

厚岸味覚ターミナル“コンキリエ”

〔建築主〕 厚岸町
〔設計者〕 ㈱URB建築研究所
〔施工者〕 清水・葵・共和一般共同企業体



第10回 平成9年度北海道赤レンガ建築奨励賞

陸別保育所

〔建築主〕 陸別町
〔設計者〕 ㈱北海道建築工房
〔施工者〕 小島建設㈱



第13回 平成12年度北海道赤レンガ建築奨励賞

札幌メディアパーク・スピカ

〔建築主〕 札幌テレビ放送㈱
〔設計者〕 ㈱伊坂デザイン工房
〔施工者〕 鹿島建設㈱札幌支店



第17回 平成16年度北海道赤レンガ建築奨励賞

精神障害者援護寮“ちゅに”

〔建築主〕 社会福祉法人 タラブ
〔設計者〕 藤本社建築設計事務所
〔施工者〕 平口建設㈱



第8回 平成7年度北海道赤レンガ建築奨励賞

夕張たふれあい館+バスステーション

〔建築主〕 北海道空知支庁
〔設計者〕 北王コンサルタント㈱/北海航測㈱
〔施工者〕 ㈱中山組/郷土建工業㈱



第11回 平成10年度北海道赤レンガ建築奨励賞

六花亭釧路 春採店

〔建築主〕 ㈱六花亭釧路
〔設計者〕 ㈱竹中工務店北海道支店
〔施工者〕 ㈱竹中工務店北海道支店



第14回 平成13年度北海道赤レンガ建築奨励賞

上川町山手地区優良建築物等整備事業

〔建築主〕 層雲峡開発㈱
〔設計者〕 A・B・C・H・I共同企業体〔㈱アーレックス、㈱アトリエブク、㈱シー・アイ・エス計画研究所、(有)ホルス計画室、アイ・エヌ・エー新建築研究所〕、矢誓ソオ建築設計共同体
〔施工者〕 ㈱間組札幌支店、中山組



第18回 平成17年度北海道赤レンガ建築奨励賞

東学園こぐまの森プレイホールガリバー

〔建築主〕 学校法人 東学園 美晴幼稚園
〔設計者〕 有限会社 ヒココニシ設計事務所
〔施工者〕 山一建設株式会社



第8回 平成7年度北海道赤レンガ建築奨励賞

朝日町サンライズホール

〔建築主〕 朝日町
〔設計者〕 ㈱中原建築設計事務所
〔施工者〕 ㈱竹中工務店北海道支店



第11回 平成10年度北海道赤レンガ建築奨励賞

根室市水産研究所

〔建築主〕 根室市
〔設計者〕 ㈱大建設札幌事務所
〔施工者〕 五洋・三共特定建設共同企業体



第15回 平成14年度北海道赤レンガ建築奨励賞

高橋建設社屋

〔建築主〕 高橋建設㈱
〔設計者〕 ㈱象設計集団、高野ランドスケーププランニング㈱
〔施工者〕 ㈱ネクサス



第19回 平成18年度北海道赤レンガ建築奨励賞

レンガの館および一連施設

〔建築主〕 JR琴似駅北口地区市街地再開発組合
〔設計者〕 ドーコン・建邑社共同企業体
〔施工者〕 株式会社奥村組札幌支店





北海道赤レンガ建築奨励賞
大成札幌ビル

北海道赤レンガ建築賞 実行委員会

社団法人 北海道建築設計事務所協会
社団法人 北海道建築士会
社団法人 日本建築家協会北海道支部
社団法人 北海道まちづくり促進協会
北海道設備設計事務所協会
社団法人 日本建築構造技術者協会北海道支部
社団法人 日本建築積算協会北海道支部
社団法人 建築設備技術者協会北海道支部
社団法人 北海道建設業協会
社団法人 北海道電業協会
北海道電気工事業工業組合
社団法人 北海道空調衛生工事業協会
北海道管工事業協同組合連合会

平成20年1月

◆編集・作成 北海道建設部住宅局建築指導課
〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目
TEL(011)231-4111(内29-470)
FAX(011)232-0147

北海道赤レンガ建築賞ホームページ
<http://www.do-sumai.jp/weblog02>